

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) Hiroki Arakawa
所属 (School) 現代システム科学域 マネジメン
ト学類
学年 (Grade) 3rd year
留学先 (Name of overseas institution)
Monash College
留学期間 (study abroad period)
2020/8/10~2020/8/28

留学レポート Study Abroad Report

★参加しようとしたきっかけ

私はこれまで地方の公立学校で部活動(サッカー10年)に没頭しその後大阪府立大学に進学しました。そのため日本以外の方と話した経験がないだけでなくパスポートも持っていないため英語とは程遠い生活をしていました。そこで大学では一度新たなチャレンジをしてみようと思いこの三週間オンラインプログラムに参加しました。参加前のスペックとしましては、

- ・TOEIC500点台(初めは385点)
- ・発音は全く知らない(センター試験のイントネーション全滅)
- ・1年次の英語の授業では発音が下手すぎて単位が危ない(出席で乗り切る)

一般的に英語に自信があったり学んだ環境がある方が留学をしたいと思います。私の場合逆に学んだことがほぼ皆無であったためキラキラしたイメージを持ち参加しました。コロナウイルスにより現地での留学ができなかったため、自宅での“オンライン留学”となりました。

★オンライン留学の仕組み

- ・Zoomを用いて1クラス15人ほどで授業を受ける。
- ・基本話さないとき以外はミュートにし、話すときのみミュートを解除する。
- ・留学先の大学から自分専用のホームページ(すべて英語)を開設してもらい、そのページを通してテキストのダウンロード、宿題の提出、メールのやり取りをする。
- ・wifi環境によりタイムラグが発生することもしばしば。
- ・雰囲気やジェスチャーが伝わりにくく、“言葉”ではっきり伝えることが必要。

★プログラム内容

speakingに特化したプログラムでした。第1,2週目はEnglish Language & Academic skills,第3週目はBusinessにフォーカスし、韓国人の学生と4人ほどの少人数グループでディスカッションしながら進めていくスタイルでした。毎回の授業では単語テストが行われ、各自覚えた後は全体で早押しテストやセンテンス作りの発表があり楽しく新たな単語をインプットできる環境でした。

・第1週目

午前中2時間、午後2時間の計4時間でした。内容としては英語の基礎を中心に電話越しの会話(Hi, this is...etc)、自分の意見を述べる際のフレーズ(In my opinion,...etc)に加え、環境問題やSNSやショップでのクレーム対応といった近年のトレンドについてロールプレイを通して実践的に学習しました。各授業でそれぞれのワークシートが準備されテーマごとにディスカッションし全体で発表しながら進行了ました。

・第2週目

第2週目は国ごとのカルチャーの違いについて学習しました。エチケット、コミュニケーション、色の認識、時間への考え方など自国の習慣を他国の学生に伝える、一緒に他国の文化を考える、ロールプレイによって誤解が生じた場面を再現することで異文化への理解を深めました。また、2週目の最終日に2 weeks challengeという2週間の間自ら設定したチャレンジ(英語で日記をつける、韓国語を勉強する、etc...)をプレゼンテーションするイベントがあり、私はフリースタイルフットボールに興味があったため授業前に毎朝練習し“around the world”という技を披露しました。技の説明、練習方法を英語で伝えることは普段使わない単語や表現が必要だったため困難を要しましたが事前に準備し練習を繰り返したことで無事成功を収めることができました。

・第3週目

第3週目のみ午前中1時間30分、午後1時間30分計3時間授業でした。第3週目からはチームでの課題解決（アルゴリズム問題、取引交渉）にフォーカスし、英語で意見をすり合わせながら一つの答えを出すセッションをメインに進みました。加えてこれまでの総括として、電話越しで価格交渉のシチュエーション、スケジュール交渉をロールプレイにより実際の場面を想定し練習しました。グループリーダーとしてチームメイトの意見を英語でまとめながら司会の役割をしたことはとても難しかったですが同時に達成感を強く感じました。

★授業外のプログラム

・在メルボルン日本国総領事館松永総領事による講演

松永総領事のこれまでの経歴、今に至るまでの苦勞、コロナ禍でのオーストラリアの現在をリアルタイムでお話しを伺うプログラムがありました。特に印象を受けた内容はコロナ禍でのオーストラリアにいる日本人への措置です。オーストラリアでは当初州と州の行き来が禁止されていたため日本人が帰国することができない状況でした。そこで国を代表して何とかできないか交渉した結果、帰国する場合は例外的に別の州に行くことを可能にすることができたというお話を聞き、日本のために世界の最前線で働くスケールの大きさに感銘を受けたとともに、これまで以上にグローバルな環境で働きたいという思いを強く抱きました。

・visitor session

モナシユ大学で日本語を学ぶ学生の方と4人グループで1時間会話をするセッションがありました。“日本に来たことは無いものの日本文化に非常に興味があり来日を楽しみに勉強している”という言葉を通じて直接お聞きし特に興味のある文化（アイドル、小説、アニメ）についてあらかじめパワーポイントでまとめ発表しました。自分自身なぜ英語を勉強するのか改めて考えることができたとともに、日本のカルチャーはポップカルチャーのほうか外国の方の間でも強く人気があることを感じました。

・パートナープログラム

現地の学生の方と二人一組で自由に会話をするプログラムがありました。3週間のオンラインプログラム終了後もSNSを通じて連絡を取り合い、日本語オンリー、英語オンリーの日を交互に自らセットし現在もzoomを用いて交流を続けています。私の場合、会話表現（相槌、話始め、会話のつなぎ）が理解できていないので使い方を直接教えて頂いています。一方でオーストラリアの授業では日本語のタメ語や若者言葉を学ぶ機会がないため使う頻度を増やして会話をしています。回ごとに新しい表現を使うようにすることで会話が豊かになっていくことを日々実感しています。

・R U OK? DAY

オーストラリアでは9月の第2木曜日に毎年“Are you OK?”と質問してコミュニケーションをとることで精神疾患や自殺を防ごうという特別な習慣があります。このプログラムの参加者で黄色の服を身につけAre you OK?と楽しく質問する様子の動画を撮りました。いつかは現地で実際に参加したいという思いがこれまで以上に強くなりました。

★プログラムを参加していく中の自身の変化

第1週目は何も伝えることができませんでした。1回目の授業の自己紹介では緊張と自信の無さから名前と年齢しか伝えることができなかったことを鮮明に覚えています。またグループセッションでは自分の意見を言葉にできずうなづくことで精一杯でした。中でも最もショックだったことは中学生で学ぶ“take part in”を伝えることができなかったことです。簡単なイディオムであるにも関わらず発音の悪さから3回ほど繰り返しましたが一度も伝わらずチャット機能を使わなければいけません。初めは思うようにいかなく苦しさの大半を占めていましたが、授業後googleの音声検索で発音の練習や、授業中に簡単な質問（what did you do yesterday?）など自ら会話する機会を作ることで徐々にコミュニケーションをとることができるようになり、第3週目では初めに自分の意見を述べ、意見を求める司会のポジションをこなすことができました。

★参加を考えている学生の皆さんへ

私のように留学に興味があるが大して英語の勉強をしたことがないという方に強くオンラインプログラムへの参加をお勧めします。理由としては2つあります。

1つ目に金銭面です。私は貸与奨学金を満額借りて生活しているのでアルバイトが欠かせませんでした。授業自体は3時に終わるのでその後アルバイトに行けたことは非常に大きかったと感じています。友達に実際に話を聞くと、1カ月30~100万（授業料+寮 or ホテル+飛行機 etc..）はかかると聞いていたので、初めての方は一度オンラインで体験することで今後実際に現地に行くかや将来のキャリア、残りの大学生活を考える機会を得ることができると思います。私はもし初めての留学が現地の場合、自分の能力の無さに心が折れてしまって最大限に機会を生かすことができなかったらと感じているので初めての留学がオンラインで良かったと強く感じています。そして、自身の課題を明白にできたため練習を重ね改善し次は現地留学を実現したい強く思うようになりました。

2つ目に学生のレベルの高さです。私がともに授業を受けた韓国人の学生の方々は皆が航空業界で働くための専門学校に通う方々でした。スタート時点での英語力に驚いたことともっとできるようになりたいという姿勢を生で感じ、日本の英語の授業では感じることでできないやる気に満ちたグローバルな環境に身を置くことができたことは非常に刺激になりました。私が言葉や表現に詰まったときはいつも丁寧にサポートしてくださり、一緒に勉強した韓国の学生の方々のおかげで無事終わることができたことに非常に感謝しています。

このプログラムを終えペラペラになれたかと言われたら、決してそうとは言えることはできないかもしれま

